

かめのり大学院留学アジア奨学生

## 月次報告レポート

(2018年2月)

### 一、研究について

今月は春休みに入って、研究計画に沿って研究を進んでいる。前にも紹介したように、『後漢書』は南朝宋の范曄が撰した後漢朝についての歴史書で、中国の二十四史の一つである。全部で一二〇巻あるが、范曄が著したのは本紀一〇巻、列伝八〇巻のみで、志三〇巻については、范曄が叛乱によって処刑されたので完成できず、晋の司馬彪によって編纂されている。日本には『和漢朗詠集』に三例ほど後漢書の引用が見られ、『日本書紀』『源氏物語』などにも影響を与えている。『平家物語』と『後漢書』の関係を考察する際に、『後漢書』作者の范曄を視野に入れたいといけな

例えば、『平家物語』長門本巻第五「宋朝班花大臣事」に以下の本文が見られる。

そうてうのはんくは大臣は、一日一夜の中に、一千人詩人を集めて、誦の風流をせさせて見事す。  
今の入道しやう海は、一夜の中に、一千余人、歌人を集めて、とかに処せんと、くはたつ。本朝、かんとは、かはれとも、権威の程のゆかしさは、違なくそおほゆる。

下線部の「そうてうのはんくは大臣」については、今まで誰を指しているか不明であったが、今回はその可能性の一つを提示したいと思う。

『日本国見在書目録』に「後漢書九十二卷 宋太子詹事 范華撰…百卅卷 范華本」に書いたように、『後漢書』作者を范華と間違っている。これはまさに『平家物語』長門本にある「はんくは」の読みと同じである。

范曄(398-445)南朝宋の歴史家で、『後漢書』の作者である。官位は左衛將軍、太子詹事(せんじ)にまで至ったが、445年謀反とはかり、事が漏れて死刑に処せられた。詩集もあったので、『平家物語』の中の「そうてうのはんくは大臣」に当たる可能性もあるだろう。

### 二、その他

今年は仕事があって旧正月に中国に帰らなかったが、3月に帰ることになりました。頼まれたものが多すぎて買い物が大変ですが、とても楽しみにしています。